

第1コース 徒歩所用約6時間

板風峠・大倉山を歩く場合は山の装備が必要です。

1 秋保市民センター

スタート地点。境野の民話の旅、藩政時代の人々の暮らしや風景を感じながら、板風峠と羽山(大倉山)へのトレッキング、街道を行き来した旅人の境地や修験の聖地大倉山を体感する旅の始まり。

徒歩15分

2 旧検断屋敷

山形から二口峠を越え、馬場を経由して仙台北下へと向かう旅人たちは、この「検断」屋敷で秋保郷での最後の検問を受け、境野へ向いました。

徒歩5分

3 瀬沢橋

長袋と境野を結ぶ二口街道の古い橋で、戦国時代は自然の要害を利用した軍事的要所でした。仙台北下から来た旅人たちは、この橋を渡ってつづら折りの急な坂を登り、街道の宿駅「長袋町」に入りました。旧街道の景観を今に伝える数少ない場所の一つで、人馬が坂道を前に橋の袂で一息つく風景が想像されます。

徒歩20分

4 境野桜町追分

二口街道の境野の追分で別に「桜町」とも云われています。仙台北下から板風峠を越え秋保郷に入るとこの追分で、山形方面と本砂金經由川崎方面とに分岐する。石碑には、右は二口街道の本線で山形方面へ、左は名取川を渡って国久、本砂金へと向かうことが記されています。石碑群を従えた桜の老木が古の雰囲気情緒豊かに醸し出しています。

徒歩20分

5 おっかな坂

境野の丘陵を越え板風峠へ向かう道筋、大柴沢に架かる橋を渡ると山を削った崖が道に覆いかぶさってくるような急な坂道となります。樹木や蔦類が生茂り、岩や沢の薄暗い雰囲気から、地元では何となく怖い場所、或いは何か出そうな処として、親しみを込めておっかな坂と呼んでいます。雨の日や夕方は、ひとりでは思わず走りたくなるという何とも言いえない稀な坂道です。

境野の民話発祥の地を歩いて巡る旅!



第2コース
徒歩所要約5時間
(短いコース&はしよるコース)

1 秋保市民センター
徒歩15分
2 旧検断屋敷
徒歩5分
3 瀬沢橋
徒歩20分
4 境野桜町追分
徒歩20分
9 取り上げ坂
徒歩5分
10 羽山七社
徒歩50分
11 大倉山(羽山)

■休憩処
手作りケーキ さいとう
おいしいコーヒーとのセットが評判、ほっと一息 ☎(397) 1285
営業時間 要確認

神ヶ根温泉
豊かな自然に囲まれた閑静な温泉でひと休み、気軽な日帰り入浴、宿泊や湯治などいろいろなスタイルで利用できる。月山権現御授けの湯として、親しまれている。 ☎(398) 2520

6 いたおろし 板風峠(板風峠の狐岩)
藩政時代、仙台北下と山形城下を結ぶ最短ルートとして関山街道の愛子と二口街道の境野をつないだ峠です。昭和初期に廃道となるまでは、秋保郷から仙台方面に向かう本線として最も往来が多かった道で、頂上付近には数基の石碑があり、民話の舞台としての痕跡を伝えています。雑木林に囲まれた峠に足を踏み入ると静寂の中で、ふと先人達が行きかう足音や、民話に出てくる白狐が木陰からこちらを見ているような気がします。

7 せいらう 大柴沢(清四郎淵)
境野の大水田地帯を潤す大柴沢、上流部には大小のため池群があり、地元では総じて「境野大堤ため池」と称しています。清四郎淵は、自然にできた淵で、土砂崩壊前は、まれに見る蒼く深い淵だったと伝わっています。いかなる渇水期でもここだけは水が枯れることがないといひ、いまでもその景観が残っています。自然のままの手つかずの空間は、伝説を伝える神秘的な雰囲気が漂います。案内者が必要なので注意!

8 もりみねやま 森峰山(境野東館跡)
板風峠から降りてきた旅人にとって、秋保郷への玄関口となり、峠越えの重圧から解放される気分爽快な景観が広がる場所です。南に境野盆地、大倉山(羽山)、楯山そして西に大東岳と秋保の著名な秀峰を見渡すことが出来る境野地区屈指の景観ポイント。戦国時代後期は、板風峠方面への警備等を目的として秋保氏一族の境野氏が見張りのための館を設置したところで、実に遠望が利く場所です。一帯には、桜が植えられ、4月の開花期には眺めの良い景色とともに、桜の名所として親しまれています。

9 取り上げ坂
民話に出てくる坂は羽山橋に降りる途中で、息子を案じる母親は、対岸の大倉山(羽山)一帯への想いを抱き、名取川河岸までこの坂を往来したと伝わっています。今はほとんどが拡幅され舗装となっていますが、神ヶ根温泉へと通ずる羽山橋付近を含めて、四季折々に風光明媚な景観が広がる名所。駐車場、公衆トイレがあり、春は花見、夏は川遊び、秋は芋煮会などでにぎわいます。

11 大倉山(羽山)
標高432m、約40分ほどで登ることができ、晴れていれば、東に太平洋を臨むことができます。頂上には羽山権現社(月山権現)があり、お堂の南には古代より伝わる希少な自然物、水壺を湛える「おみたらし」と称される大岩の御神体があります。入口の鳥居付近は、光善院と称される秋保郷随一の規模を有する修験の道場や祈禱所があったところで、秋保郷以外からの参詣者も多かったといひます。民話に出てくる学問所は、この羽山光善院と解されており、中世期頃は、山の中腹にもお堂があったと伝わり、長く女人禁制だったと云われていました。

10 羽山橋・羽山七社
羽山橋付近から大倉山(羽山)一帯の名取川の南岸には、希少な自然物が点在し、これを崇敬する文化が生まれ、古くより秋保郷の修験の聖域としての歴史がある場所です。羽山橋下流には、柱状の自然の石塔が数基立っていますが、いずれも頂部には祠があり、羽山七社と称される御神体群(八幡社、稲荷社、熊野社、山王権現社など)は、羽山橋の付近の四季の景観とともに、特色ある風景を成しています。伝説に登場する母親も、取り上げ坂を降りて名取川の対岸からこの石塔を仰ぎ、息子の成長を案じたものと思われ、母親の心情と成就を導いた羽山の修験の物語を伝えています。

